

痔について

今回は痔についてお話をしましょう。痔を持っている人のことを『痔主』とも言います。決して誇れるものではありませんが、どうもみなさん痔主であることを隠しているようです。日本の大規模なアンケート調査では33%に痔があるという結果が出ています。「日本人には痔主が多い?」でもその前に痔は人類特有の病気と言われています。2足歩行やトイレ習慣などが原因のようです。ですから痔主は少なくありません。白状しますと肛門外来を担当しているこの私も実は痔主です。ではみなさんの疑問に答えて参ります。

「痔はどこで診てもらえるの?」

意外と知らない人が多いので説明しておきます。痔は肛門疾患のため外科が診ます。肛門科の病院でしか診てもらえないわけではありません。市民病院などでは外科医師が担当します。もちろん手術も外科医が行います。『肛門科』という標榜科がなくても大丈夫です。痔があったら迷わず外科にいらしてください。

「痔は切ったら治るの?」

痔の中でも脱出するようないわゆるイボ痔は切ることにより治せます。でも誤解しないでください。切ったらその後ズーっといいとも限りません。なぜなら痔は生活習慣病のひとつだからです。慢性的な便秘があったり、トイレでいつもカんでいたり、お酒をいつも飲んでいたりすると、せっかく治してもまた再発します。痔を良くするにはまずご自分の肛門の負担を軽くしてあげることです。自分では見えませんが、いつも使っている大切な場所なのでいたわってあげてください。詳しくは外科外来に『おしりの衛生10カ条』という紙がありますので窓口でお申し付けください。肛門外来にかかれる患者さんには自動的にお渡ししています。

「じゃあ切らずに治せるの？」

肛門の手術は痛いと言われます。しかし注射療法はほとんど痛みがありませんので最近はさかんに行われています。9年前に認可されたジオンという新しい注射薬を使います。もとは中国の消痔靈という漢方薬から開発されたものですが、バックグラウンドには中国4000年の漢方の歴史があるわけです。ちょっと大げさですがいい薬です。当院でも1泊2日の入院で注射療法を行っています。ただすべての痔に効くわけではありません。主に内痔核という肛門の内側にできた痔によく効きます。外痔核やポリープや年季の入った？大きな痔にはちょっと無理ですのであしからず。痔の治療法にはその他いろいろなものがありますので外科の肛門外来までお気軽にご相談ください。

「ちょっと出血するが痔なら大丈夫かな？」

排便時に出血するため受診される患者さんが少なくありません。たいていは痔からの一時的な出血ですので軟膏と内服薬で治ります。しかし大腸癌など怖い病気でも出血はよくみられます。当科でも痔の治療をしながら大腸など消化管の検査をみなさんに必ずお勧めしています。怖い話ですが、痔だと思ったら実は大腸癌だったということは年に何度も私たちは遭遇しています。『肛門の出血あなどるなかれ!』です。

とりとめのない痔主の話で御免下さい。紙面が尽きましたので、詳しくは外科の肛門外来までお越しください。

外科 主任部長 川瀬義久

No.78 2013.10.1 発行 編集：教育・広報活動委員会